

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392700049		
法人名	医療法人三善会		
事業所名	医療法人三善会グループホームふるかわ 東ユニット		
所在地	愛知県津島市古川町2丁目55番地		
自己評価作成日	平成28年11月 7日	評価結果市町村受理日	平成29年 4月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajgokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhou_detail_2016_022_kani=true&JigyouvoCd=2392700049-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F
訪問調査日	平成28年12月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

敷地も広く平屋建て。緑を多くとり入れ、各ユニットに中庭もある。スタッフと入居者として緩やかなゆつたりとした空間を過ごせるホームである。
買い物や散歩をはじめ、外出をできるだけ行い、ホームの中だけで過ごすことを減らすよう取り組んでいる。
看護師を配置し、入居者の健康管理と医師との連携に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念である『明るく、笑い、楽しめる、心やすらぐ家』を実践するため、管理者・職員は利用者の残存能力を引き出し、自宅の生活そのままに家事や調理に発揮できるように支援している。食事場面は利用者が残存能力を発揮できる場所であり、職員は張り合いや自信、楽しみ、喜び、心身の向上につながる重要な位置である事を理解しており、利用者へやる気を起こすよう取り組んでいる
これらの取り組みに対して家族アンケートには、『アットホームの中で生活出来、本人も落ち着きを取り戻した』、『本人が温和になり家庭では出来ない介護をしてもらい』、『何時も感謝の気持ち一杯になり、ホームを後にする』等の称賛の言葉が多く、厳し評価を受けがちな『戸外の外出』でも、回答者全家族から満足(やや満足も含む)との温かい回答を得ている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時に、スタッフみんなで意見を出し合い決めた『明るく、笑い、楽しめる、心やすらぐ家』をリビングへ設置し、いつも目に入るようにしている。	ホーム理念『明るく、笑い、楽しめる、心やすらぐ家』をリビングに掲示し、職員に周知している。職員から『利用者が、やすらかに穏やかに過ごせる事を念頭に支援している』との言葉があった。	理念は周知され、職員が個々の思いで実践している。理念を展開したホームの目標(年次・月次)を掲げ、職員が同じ方向に進むベクトル合わせを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に1度地域ボランティア訪問がある スタッフの地区防災訓練への参加 町内会として回覧板もまわっている 地域への外出、スーパーへの買い物	民生委員の働きで、散歩時に危険とホーム隣の用水路に柵を設け、地区の運動会では『ホームの方が応援に来た』とテントの最前列に席を設け、管理者が老人クラブで講演する等、双方向の地域交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域老人クラブのふれあいサロンへの参加		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催 地区民生委員、地域包括支援センター職員の参加 民生委員さんより地域のイベントの情報や取り組みの紹介を受け参加している。GH近くの危険箇所へのフェンス取り付けに至る。	高齢介護課・隣接する2地域包括支援センター・民生委員・家族・利用者・職員のメンバー構成で、運営推進会議を年6回開いている。市役所・地域包括支援センターは毎回出席し、関心度が高い。	参加メンバーとして知見者(他のグループホームの管理者等)の参加を促し、参加しているメンバーにとっても、他のホームでの取り組みや情報は大変参考になると思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	メール、電話、窓口での情報のやり取りを行い、困ったときには気軽に相談できる。具体的に入居者の相談にも乗っていただく。	高齢介護課・隣接する2地域包括支援センターの運営推進会議への出席、介護相談員の受け入れにより、ホームの状況は随時市の窓口に伝わっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全上、出入口の施錠は終日行っている。	管理者・職員は身体拘束による弊害を理解しているが、業務優先になり安全が確保できないとの思いから、玄関の施錠が常態化している。管理者は玄関施錠の常態化を改善して行こうと考えている。	勉強会の機会に『指定基準に定める禁止行為(施錠も含まれる)』を今一度確認し、『安全＝則施錠』の考えではなく、例え僅かな時間でも開錠し、利用者が自由を味わえる事を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内に虐待についての資料はある。積極的に学ぶ機会は少ないが研修への参加・伝達。職員間での利用者の情報の共有と対策を考え話し合う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会・研修への参加		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者より、入居相談時や入居日に説明を行う。入居後も家族に声をかけその都度確認し、説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様が来たときは、近状を報告及び、何か気になることはないか聞くように努めている。津島市の介護相談員を受け入れている。	ホームと家族との間に深い信頼感がある。家族アンケートで回答者の半数の家族が、設問の12項目すべてに満足と答えているところから、家族のホームに対する思いを感じ取る事ができる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は週に数回、入居者、職員とともに過ごし話しやすい雰囲気を作っているが、改めて意見交換する場は特に設けておらず、今後の課題である。管理者は改めて聞く機会は設けていない	管理者は常に職員の意見を聞くように努めており、職員ヒアリングでは『何でも相談に乗ってもらえる』との言葉を聞くことが出来た。職員の提案が積極的に採用され、職員の意欲に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は週に数回、入居者、職員とともに過ごし話しやすい雰囲気を作っているが、改めて意見交換する場は特に設けておらず、今後の課題である。昇給もあり有休も取りやすい		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修会への参加		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入している。市役所の提案で今後市内4グループホームの連絡会を行う予定。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	レクなどを通じて興味のあることを知り、くつろぎの時間には隣に座り、会話の時間を確保しご本人の理解に努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面接を大切にするように心がけている。家族からも事前に情報を得て、家族自身の思いも時間をかけお聞きするようになっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時に、ほかの方法の提案も行い、選択していただけるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、料理などスタッフと行ったり本人のできることにしていることに応じ、色塗り、編み物、将棋、犬の散歩等行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時はゆっくりと過ごしていただけるよう、各部屋へご案内したり飲み物を出したりしている。手作りおやつと一緒に召し上がっていただく。大きな外出時はご家族様にも声をかけ参加していただく。行事予定の掲示		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、ご友人へホームへの訪問を働きかけている。挨拶や出迎え、お茶を出す、お見送りなど訪問しやすい雰囲気づくりに努めている	家族面会時に利用者の馴染みの場所を聞くように努めている。家族から聞き取った馴染みの喫茶店やスーパーに出かけ、関係継続が出来る様に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフにて声をかけ仲介し、話やゲームも利用者同士と一緒にできるようスタッフも参加して楽しむ		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設などにより契約の終了した方への面会や家族の不安への相談対応など		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	仕事に行く、や帰宅願望などの訴えに対し、毎日の過ごし方について各自の希望に寄り添い不安が軽減できるように気分転換やじっくり話を行くなどの対応に努めている。	日々の支援の中で、1対1になる時に寄り添って話を聞き、表情・仕種から思いの把握に努めている。日頃あまり喋らない人の思いは、職員同士で『この人は・・・と思っているのでは』と確認し合う事もある。	直ぐに実現できる『思い』を叶えた事例は多くある。時間がかかったり、計画的に進める必要のある『思い』を埋没させず、介護計画につないで実現して行く事を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	よく通っていた喫茶店へ一緒に外出するなどの対応 毎日の入浴・主食の選択・食事の延食		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	パズルや脳トレなど本人に合わせたものを行う。調理への参加をしていただく。不安定な歩行の人への対応や転倒の予知、庭仕事に誘うなどその方に応じたケア		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	不定期で利用者への支援方法の話し合いをしている。	月1回、居室担当者がモニタリングを行い、6ヶ月毎にケース会議を行って目標の見直しをしている。サービス担当者会議には、事前に家族から聞き取りをしてサービスに活かしている。	短期目標を達成可能な具体的内容にまで落とし込み、その人らしさが感じられる計画にし、家族・利用者・職員が達成感の味わえる計画を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、生活記録へ記載している。その時々様子について気づき等は細かく記入しスタッフ間での共有を図る		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	連携病院以外の医療機関への通院介助 急な外出への対応		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	津島市の広報を利用し地域での催しに参加		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診、または訪問診療などその時の状況に応じ依頼し診察が途切れないように支援する。看護師ができるだけ付き添い主治医と話ができるように努める。できるだけ自宅でのかかりつけ医が継続できるように支援する。	約半数の利用者が協力医をかかりつけ医としている。協力医は月1回の往診がある。その他のかかりつけ医や専門医への通院は原則家族対応であるが、家族の都合によっては柔軟に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が配置されているため、その場ですぐに報告・相談ができ、対応している。看護師不在時は電話で対応		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	できるだけ看護師が付き添い、医療機関への申し送りのやり取りができるようにしている。病院関係者とは看護師が日ごろからやり取りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	対象のケースがまだないが、契約の段階での説明は行っている。	入居時に『看取り指針』を説明し、医療行為がない限り見ていく考えである。重度化していく段階で『ここまででは出来る・・・これ以上のことは出来ない・・・』の説明に同意され、看取りに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	開所前の研修でAED講習をうけた。その他の対応の方法についてはマニュアルはあるが訓練の機会はなかった。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練などの計画をし、訓練を行っている。防災設備会社の立ち合い指導と消防署の立ち入り調査も受けた。地区の防災訓練にスタッフ2名が参加したがまだまだ不十分である。	春・秋年2回避難訓練(日中・夜間想定)を実施している。初期消火・通報・避難訓練を行っている。水害の場合はアメニティ3、4階が避難場所になっている。車を借りて利用者に乗せ、4階まで上がる訓練をした。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ介助時の声掛け、配慮 同じことの質問への初めて聞いているとの対応など	利用者に対して人生の先輩として尊敬の意を忘れず、丁寧な言葉使いを心掛けている。 居室入室時はノック・声かけを行い、トイレ介助時のドア閉め、入浴介助時の羞恥心に気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出など行きたい場所はないか希望を聞く。 質問の方法の工夫で本人の希望を探る。家事への参加を促す		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の毎日の様子により、一日の生活の流れを柔軟に対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧品やマニキュアなどの身だしなみへの支援 希望に沿って毛染め、毎朝くしで紙を整える衣類の買い物の希望への支援		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の調理以外にも稲荷すしやおせち巻きずしなど一緒に作る。食器を運んでいただく食事は、毎食職員も一緒に取っている。	食事が楽しみの場である事、『力量』が発揮できる場であることを職員は認識しており、利用者個々の『力量・役割』が発揮されている。 車椅子の利用者も職員の見守りの中、自身で下膳を行っていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みや量、塩分を控える、水分摂取への配慮など 言葉で表せない方へ食事の様子から好みや形態への配慮を取り入れるように観察。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の能力に応じ、毎食後声掛けをし口腔ケアができるように促している。入れ歯の方は、消毒時預かり介助にて消毒を行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙パンツを使っていた方へ布パンツとパットの使用へ変更。各自の排泄状況把握し誘導、昼間の気温などによる変化も含め気を配りトイレを促す。	排泄チェック表に基づいてパターンを把握し、利用者個々に合わせたトイレ誘導を行い、トイレで排泄出来る様に支援している。尿意のない利用者の日中オムツを布パンツに改善し、湿疹が減少した事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	生野菜、乳製品、果物、食物繊維の豊富な食材をとっていただき、薬を使わず自然排便できるように心がけている。オリゴ糖の利用。散歩・ラジオ体操		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日の希望のある方への対応 夜寝る前の入浴への支援	希望があれば毎日の入浴や寝る前の入浴にも対応している。湯は毎回入れ替え、その利用者に合わせた入浴剤を使用している。『ゆっくり入って』と声をかけたり、一緒に歌を歌う等、寛げる工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	特に就寝時間、起床時間は決まっておらず、眠れない時は、無理に寝ていただくずに話を聞いたり一緒にお茶を飲んで過ごしたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師がおもに管理し、スタッフは内容や注意事項を聞いて観察している。また、スタッフからも変化や様子について報告や質問もしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホームでの役割、新聞まとめ・庭仕事・穴あけ)調理への参加や買い物、近隣の神社へ外出・散歩。誕生日会など		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	急な喫茶店外出や買い物、動物園水族館(入居者の希望を聞いて)への外出、家族参加も働きかけている。	日常的には近隣の散歩・津島神社・食材買い物・馴染みの喫茶店・スーパー等に出かけている。行事的に名古屋港水族館・なばなの里・イルミネーションに、季節的には花(梅・桜・藤・紫陽花・銀杏)を求めて出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じてカバン、財布を持っている人もいます。金額については家族の了解されている範囲で持っていた。また、個人の預かり金があり、動物園など外出時に使う機会を作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の様子に応じて家族へ電話を掛けたり、取次の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ、浴室、洗濯室が分かりやすいように張り紙をしている。衛生クロスでの拭き掃除での清潔保持。ペーパーの補充。 季節を感じられるような装飾をしている。音楽、加湿器、アロマの活用など落ち着ける雰囲気づくりをしている	利用者が集まるリビングには、ゆったりしたソファやテーブルがあり、台所から見守りやすい配置である。季節を感じる掲示物や利用者の写真が掲示してあり生活がうかがえる。食事を終えた利用者が洗面で楽しそうに談笑しており、賑やかな場面である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にソファがある。廊下に長椅子を置き利用者同士の井戸端会議の場となっている。自分の部屋のほかの方をまねき談笑		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ自宅で使っていたものを持ち込んでいただくようお願いしている。写真など飾っていただく。紙パンツやポータブルトイレなどは布で覆い隠すようにしている。	馴染みの筆筒・座机・絨毯・ベッド等が持ち込まれている。清潔で整理された居室が多く、孫の書いた『おばあちゃん大好き』の手紙が家族との絆をうかがわせ、暖かい雰囲気を醸しだしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下は広く必要な個所への手すりの設置。 台所の高さ、スペースなど高齢者中心に配慮した。建物はバリアフリーとなっている。危険個所には緩衝材をつけた。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392700049		
法人名	医療法人三善会		
事業所名	医療法人三善会グループホームふるかわ 西ユニット		
所在地	愛知県津島市古川町2丁目55番地		
自己評価作成日	平成28年11月 7日	評価結果市町村受理日	平成29年 4月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2392700049-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市中区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成28年12月 1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

敷地も広く平屋建て。緑を多くとり入れ、各ユニットに中庭もある。スタッフと入居者とで緩やかなゆったりとした空間を過ごせるホームである。
買い物や散歩をはじめ、外出をできるだけ行い、ホームの中だけで過ごすことを減らすよう取り組んでいる。
看護師を配置し、入居者の健康管理と医師との連携に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時に、スタッフみんなで意見を出し合い決めた『明るく、笑い、楽しめる、心やすらぐ家』をリビングへ設置している。しかし暗唱できるほど浸透していないかもしれない。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に1度地域ボランティア訪問がある スタッフの地区防災訓練への参加 町内会として回覧板もまわっている 地域への外出、スーパーへの買い物		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域老人クラブのふれあいサロンへの参加		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催 地区民生委員、地域包括支援センター職員の参加 民生委員さんより地域のイベントの情報や取り組みの紹介を受け参加している。GH近くの危険箇所へのフェンス取り付けに至る。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	メール、電話、窓口での情報のやり取りを行い、困ったときには気軽に相談できる。具体的に入居者の相談にも乗っていただく。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全上、出入り口の施錠は終日行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内に虐待についての資料はある。積極的に学ぶ機会は少ないが研修への参加・伝達。職員間での利用者の情報の共有と対策を考え話し合う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年入居者にて後見人制度活用の相談があり、実際に家族の相談に乗り、手続きの手順などの説明を行った。市への報告もした。スタッフの学ぶ機会は少ない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者より、入居相談時や入居日に説明を行う。入居後も家族に声をかけその都度確認し、説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時にご利用者様の近況報告をするとともに、気になることがないか聞くようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は週に数回、入居者、職員とともに過ごし話しやすい雰囲気を作っているが、改めて意見交換する場は特に設けておらず、今後の課題である。管理者は改めて聞く機会は設けていない。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は週に数回、入居者、職員とともに過ごし話しやすい雰囲気を作っているが、改めて意見交換する場は特に設けておらず、今後の課題である。昇給もあり有休も取りやすい		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフにかかりや役割をつけ、やりがいを持ってもらえるように努めている。法人内・外の研修		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入している。市役所の提案で今後市内4グループホームの連絡会を行う予定。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面接を大切にするように心がけている。家族からも事前に情報を得て、ご本人の要望等理解できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面接を大切にするように心がけている。家族からも事前に情報を得て、家族自身の思いも時間をかけお聞きするようにしている。面会時には出迎え、挨拶お見送りをしホームに通いやすい雰囲気努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時に、ほかの方法の提案も行い、選択していただけるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、料理などスタッフと行ったり本人のできることにしていたことに応じ、色塗り、編み物、将棋等行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時はゆっくりと過ごしていただけるよう、各部屋へご案内したり飲み物を出したりしている。大きな外出時はご家族様にも声をかけるように努めている。2か月に1度新聞度作り家族に読んでいただく。行事予定の掲示		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブで馴染みの地域へ行くようにしていたが最近減ってしまった。 ご家族、ご友人へ手紙を出す。ホームへの訪問を働きかけている。近所の方の訪問や友人の訪問もある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	外出等レクリエーションを一緒に楽しめるよう取り組んだり一緒におやつの時間を過ごしたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などにより契約の終了した方への面会や家族の不安への相談対応など		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当者をつけることにより、利用者の生活の把握をしてもらうように努めている。本人の気持ちの理解や希望の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートや本人、家族との会話にて把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	勤務の始まりには、生活記録を見るように努め、本人に体調をうかがったり、表情を見て、活動をしていただいている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリング、担当者会議を行い、入退院など大きな変化があった場合にも計画を行うことにより現状に即した計画を作成することに努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、生活記録へ記載し共有、反映を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の実情に応じた方法で支援できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	津島市の広報を利用し地域での催しに参加		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診、または訪問診療などその時の状況に応じ依頼し診察が途切れないように支援する。看護師ができるだけ付き添い主治医と話ができるように努める。できるだけ自宅でのかかりつけ医が継続できるように支援する。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が配置されているため、その場ですぐに報告・相談ができ、対応している。看護師不在時は電話で対応		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	できるだけ看護師が付き添い、医療機関への申し送りのやり取りができるようにしている。病院関係者とは看護師が日ごろからやり取りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	対象のケースがまだないが、契約の段階での説明は行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	開所前の研修でAED講習をうけた。その他の対応の方法についてはマニュアルはあるが訓練の機会を作っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練などの計画をし、訓練を行っている。防災設備会社の立ち合い指導と消防署の立ち入り調査も受けた。地区の防災訓練にスタッフ2名が参加したがまだまだ不十分である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者と一緒に行動するよう声をかけたり、部屋へ入るときはなるべく本人に確認するよう努めている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	誕生日に本人に何が好きか聞いたり、飲み物を選んでもらったりと自己決定をするきっかけをつくる。外出など行きたい場所はないか希望を聞く。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	掃除や食事等おおまかな時間は決まっているが、それ以外は一人ひとりその時の体調や、気分に応じた生活を送っていただけるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ハンドネイルの講習を受けたスタッフもいて、女性入居者におしゃれを楽しんでもらっている。毛染めの希望の方に行く。衣類など一緒にえらぶ。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理方法を利用者に関心したり、利用者の能力に合わせ、調理・片づけ等に声をかけ、行っていただいている。 食事は、毎食一緒に取っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量を記載、少ない時は高カロリー食や好きなものを食べていただく。水分はこまめにとっていただく機会を作る。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の能力に応じ、毎食後声掛けをし口腔ケアができるように促している。入れ歯の方は、消毒時預かり介助にて消毒を行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックをし、必要に応じ声掛け誘導を行う。排泄後の流し忘れのために、張り紙をしている。布パンツでよいか、ポータブルトイレは必要かなどその都度スタッフで話し合い、必要に応じたケアを行うようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	生野菜、乳製品、果物をとっていただき、薬を使わず自然排便できるように心がけている。水分摂取をこまめにしていただく。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	なるべく希望に添えるように努めてはいる。夜2人(夜勤者と遅番)職員がいるときは夜の入浴の希望にも添えるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	特に就寝時間、起床時間は決まっておらず、眠れない時は、無理に寝ていただく話を聞いたり一緒にお茶を飲んで過ごしたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師がおもに管理し、スタッフは内容や注意事項を聞いて観察している。また、スタッフから変化や様子について報告や質問もしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	朝の掃除では、やる事が日常化している方もいる。又個々に得意の事好きなことをしていただけるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩や買い物に出かけている。衣替えの季節や、正月には自宅に帰られたり、ご家族の家へ外泊されている。スタッフと一緒に自宅から近いスーパーへ買い物に出かけるなど支援する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	鞆に財布を入れ現金を入れている方もいる。不安なので預かっているがそれで落ち着いている。所持しない方も預かり金があり、外出時に使う機会を作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話使用時取次ぎを行う。 年賀状を書いたり、手紙を書いたりされており、近くのポストへ一緒に投函している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ、浴室、洗濯室が分かりやすいように張り紙をしている。 季節を感じられるような装飾をしている。音楽、加湿器、アロマの活用など落ち着ける雰囲気づくりをしている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲のいい者同士でソファへ集まって話したりし過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ自宅で使っていたものを持ち込んでいただくようお願いしている。写真など飾っていた。紙パンツポータブルトイレは布などで隠すようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下は広く必要な個所への手すりの設置。台所の高さ、スペースなど高齢者中心に配慮した。家具の配置なども押し車や車いすの方も歩く機会が持てるように工夫している。		